

審 議 会 会 議 録

会議名称	令和6年度 第2回 伊達市立図書館運営協力会		
議 題	(1) 伊達市立図書館の整備について (2) 教育長への提言について		
開催日時	令和6年8月30日(金) 14時00分～15時40分		
場 所	伊達市立図書館 2階 視聴覚室		
出席委員	本多 正機 委員 阿部 聖司 委員 伊藤 洋子 委員 坪 美幸 委員 成沢 優美 委員 萩野 泰史 委員 松崎 恵子 委員 (計7名)		
	所管部課名	教育部図書館	
公開 非公開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	3名
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
【会議の概要】			
1 開会 (事務局：教育部長)			
2 議題			
(1) 伊達市立図書館の整備について・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料1 【事務局案のとおり可決。質疑応答は別紙のとおり】			
(2) 教育長への提言について・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料2 【事務局案のとおり可決。質疑応答は別紙のとおり】			
3 その他【詳細は別紙のとおり】			
4 閉会			

【別紙（「2 議題(1)～(2)」の協議内容等）】

会 長：それでは、議題(1)について、事務局より説明願う。

事務局：＜資料に基づき説明＞

会 長：ただいまの説明に対して、意見・質問はあるか。

委 員：自動貸出・返却機について、高齢者には使いにくい。

委 員：DXは良いが、職員数を減らす意図はあるのか。使い方の指導やコミュニケーションも必要であり大切だと考える。

事務局：新館開館に向けて職員数は増やしたいと考えているが、セルフ方式を導入することでカウンターの人数は減らすことができる。開館当初は操作指導する機会も多いと想定されるが、いずれは余力を別の業務に充てるなどして、利用者に求められる新たな事業への挑戦や図書館サービスの充実を図りたい。

委 員：読み聞かせスペースのかまくら形状の変更を検討していることには賛成する。絵本については閉架になるものも多いと思うが、現在の開架絵本と比べてどの程度を開架とするのか。児童書全体でなく、絵本に限った目安を教えて欲しい。

委 員：整備検討委員会では旧館にも配架するという話もあった。新館で足りないスペースは旧館で補うのも一つではないか。

委 員：そもそも遊戯施設での配架が可能なものなのか。現時点で確約が無い以上は新館でスペースを捻出することを前提にしなければならないのではないか。

委 員：フリースペースがどのようなものになるのか、遊戯施設に持って行くことが可能であれば絵本の開架を増やせるのではないか。次回の遊戯施設ワークショップが図書館での開催なのでその辺りも含めて参加者に見て貰えると良い。

事務局：絵本の開架数については後日の回答としたい。児童書コーナーの配架方法については多様な考え方があるため次年度のテーマとしたいと考えている。旧館利用については遊戯施設ということ以外は決まっていないと聞いているので、今後の議論の中で図書館や児童部門の意見も反映させられるのではないかと考えられる。その際は図書館の意見として遊戯施設の一部を利用して貰えるよう訴えていきたい。ICゲートが新館側に設置される都合で遊戯施設に蔵書を配架することは難しいので、閉架の中から除籍する本を選書するなどして遊戯施設用の絵本を配架することが望ましい。

委 員：2階の学習スペースは巡回等するのか。不適切利用や体調不良等に気付けるものか。担架が必要な場合にはエレベータのサイズが小さいのではないか。

委 員：個室内が見える作りになっていれば良いのではないか。

事務局：個室の利用については時間制限や利用者情報の管理は行う。必要があれば巡回することは可能である。各部屋は窓付扉を想定していたが改めて対策を検討したい。エレベータはバリアフリーの観点から車椅子利用を想定した基準となっている。

委員：防犯カメラは設置されるのか。

事務局：構造上の死角が生まれるため防犯カメラを設置することになる。図書館と防犯カメラについて議論があるのは承知しているが、運用方法を厳密にすること、また、設置している旨の周知を徹底することで犯罪の抑止としての効果を期待している。

会長：それでは、議題(2)について、事務局より説明願う。

事務局：＜資料に基づき説明＞

委員：＜意見無し＞

会長：前回出された意見は概ね盛り込まれており異論は無いが、これで決定ではないので、次回最終確認としたい。

事務局：言い回し等を校正したものを次回お諮りしたい。

委員：（全員了承）

3 その他

＜事務局から報告＞

- ・ 図書の寄贈について
- ・ 道立図書館利用登録の取次について
- ・ 秋の読書週間（飲食ニーズ調査、アナログゲーム体験）について
- ・ 会計年度任用職員（司書）の募集について
- ・ 第3回の開催日程を10月11日（金）14時からとした。

伊達市立図書館の整備について

前回資料からの主な変更点(検討中を含む)について

1階

- ・読み聞かせスペース(かまくら)を西側の壁付け(形状変更)に変更
- ・カウンター配置(返却機・貸出機をメイン)変更
- ・コイン式コピー機を雑誌新聞コーナーからカウンター横の通路に変更

2階

- ・倉庫4(ボランティア倉庫)を読み聞かせ・グループ学習室内扉から外扉へ変更
- ・個別学習室の個室を2部屋から3部屋へ変更
- ・電子基準点の電波干渉のため個別学習室上部の排煙窓を中止

令和6年度伊達市立図書館運営協力会教育長への提言について

伊達市立図書館運営協力会提言内容(令和元年度～令和5年度)

年度	提言内容
令和元年度	○図書館施設整備の早期実現 ○学校との連携強化
令和2年度	○図書館施設整備の早期実現について ○児童書及び絵本の配架替えについて ○図書館の利用拡充について ○図書館と学校との連携の進め方について
令和3年度	○図書館施設整備の早期実現について ○図書館の利用拡充について ○学校との連携の進め方について ○図書館職員の適正な人員配置について
令和4年度	○図書館施設整備の早期実現について ○図書館の利用拡充について ○学校との連携の進め方について ○図書館職員の適正な人員配置について
令和5年度	提言なし

【第1回での確認事項を踏まえた提言の考え方】

直近での提言内容は、『図書館整備』『学校との連携強化』を中心に『利用拡充』『職員の適正配置』を提言していることから、令和6年度についても経過を踏まえた内容が望ましい。

しかしながら、令和8年度の夏には新図書館の運用が開始される計画となっていることから、より市民に求められる施設の整備を追求すること、そして、その施設を運営するスタッフの充実を追求することが特に重要であると考えられる。

このことから、ハード面では『図書館整備』、ソフト面では『職員の適正配置』に絞った内容の提言を行うこととする。

【令和6年度口頭提言素案】

○図書館整備について

図書館施設の整備については、現在実施設計が進められており、その経過についても報告を受けているところですが、次の大きく四点について改めて配慮いただきたい。

一点目は、開架資料数の維持と展示方法の充実で、特に開架数の減少が想定されている児童書・絵本について、読み聞かせスペースの構造を工夫する等して、少しでも書架を増やすよう検討されたい。

また、書架を増やすことで面展示の充実を図り、子どもに対して視覚的に訴え掛け、興味を抱かせる工夫に配慮願います。

二点目は、学習スペースの充実と利用時間の拡大で、カルチャーセンター等の公共施設で学習したいという一定のニーズが確認されている中、個別学習室の席数確保とJRやバス等の運行時間を踏まえた開館時間の延長について検討されたい。

三点目は、従来の図書館機能の維持と市民に求められる第3の場（サードプレイス）としての充実で、図書館は静寂な読書空間を確保すべきという従来型の考え方を大切にしながらも、今後訪れる人口減少や社会構造の変化に対応するよう、図書館が第3の場をリードすべく会話や飲食を可能とするスペースを設け、図書館に対する多様な考え方の共存を図るよう館内スペースの明確化を検討されたい。

四点目は、周辺環境の整備で、バリアフリーの観点からも大型遊具・遊戯施設等も含めた中で利用者ニーズを想定したゆとりある駐車場の確保、周辺通路の舗装化を検討されたい。

また、開館時間の延長を前提に学生利用を踏まえ、夜間照明の設置を増やすことにより安心して安全な環境づくりに配慮願います。

○図書館職員の適正配置について

現在の図書館職員の人員配置では現在の図書館を運営するにも充足しているとは言いがたく、これからの新図書館運用を見据えても、その移行のための準備段階から職員の増員を図らなければ新図書館が求められている機能を果たすことは難しい。

本来であれば司書の正規職員化や新規採用による増員が望ましいが、財政状況等から図書館ばかりに人件費を投じることは難しいとも推察されることから、新図書館運用に向けて最低限必要となる司書等の人員の早期確保を実現していただきたい。

また、レファレンスサービス等の司書が対応する図書館業務については原則として市直営を維持し、働き手の確保についてはコアタイムのみのパートタイム勤務等も可能にする等の働き方改革を柔軟に検討されたい。

なお、開館時間の延長がなされる場合には、建物管理等については外部委託等を活用する等し、職員の負担を軽減するよう検討されたい。